

## アドバイス・レポート

平成19年12月25日

平成19年10月30日付けで第三者評価の実施をお申込みいただいた宇治市小倉デイサービスセンターにつきましては、第三者評価結果に基づき、下記のとおりアドバイスをいたしますので、今後の事業所の運営及びサービスの提供に役立ててください。

## 記

評価が高かった点	<p>I (1)組織の理念・運営方針  II (1)サービスの品質の確保  (2)個別援助計画  III (1)①人権等の尊重 ②プライバシーの保護  IV (2)質の向上に係る取り組み  ①利用者満足度の把握</p>
理由	<p>I (1)宇治市ではじめての小学校の空き教室を活用した施設という立地条件にも支えられ、広く地域の人々に愛され「地域に開かれた 地域に根ざした 地域住民に支えられた施設づくり」という法人の設立精神が生き生きとしている施設であると実感しました。  II (1)限られた人員の中で、3勤務体制（早番・中番・遅番）により、日常業務が円滑にすすめています。  (2)校舎を活用した施設という立地条件を生かし、廊下を利用した歩行訓練をはじめ、ゴムバンドを使った機能訓練・健康体操などにより、利用者の身体機能の向上に効果を発揮しています。  また、浴室介助については、利用者の希望も採り入れ、機械浴はせず、独自の介助器具を自製して利用者が自分の力で入浴を楽しめるよう工夫がされています。  III (1)全てのスタッフに対し、「利用者の対応が一人の人間として尊重されることを」の意識付けができています。また、利用者に関わるスタッフ間の会話は事務室で行う等、利用者の情報が他の利用者や第三者に漏洩しないよう常に配慮されています。  利用者の写真などの公表についても、本人の意思の尊重と肖像権の保護に留意されています。  IV (2)毎年度、利用者アンケートを実施するとともに、その結果を分析検討し、サービスの質の向上に役立て法人の年報「一年のあゆみ」でも公表されています。</p>
改善努力を要する点	<p>I (3)①労働環境への配慮  (5)②継続的な研修の実施 ③OJTの実施  II (3)利用者等の希望尊重  III (2)④地域への情報公開  IV (1)③第三者への相談機会の確保</p>
理由	<p>I (3)① 管理者・スタッフ共業務量が多く、過重負担になっているようです。早急な改善が必要です。  (5)② 研修の実施計画が出来ていません。  ③ OJTが不十分のようですが、指導・助言の出来る体制を策定下さい。  II (3)利用者や家族からの希望の聞き取りは、個別支援計画の策定に不可欠で受け入れ時には適切に実施されていますが、受け入れ後は家族等との面談の機会が少ないように思えます。  III (2)④情報開示、地域へのPR活動については、忙しい日常業務の中、ボランティアや実習生の受け入れ等の努力をされていますが十分ではありません。  IV (1)③公的機関の苦情・相談窓口が「重要事項説明書」などで、利用者には開示されていません。</p>

具体的な  
アドバイス

1. 施設運営の基本は、月1回、全スタッフで開催している「現場会議」で決定・確認されていますが、すべてのスタッフが利用者の課題を認識して日々のサービスができるよう、毎朝の確認事項など、利用者別のサービスポイント（その日の課題）を事務室に一覧掲示するなどの工夫をしてみても如何でしょうか。（事務室が独立しており、利用者や部外者が無断で出入りできないので掲示は可能。）
2. アンケートの中にも「センターでの利用者の様子などがよく解らない。」という意見も寄せられていますが、利用者との日常会話や連絡帳の交換だけでは利用者のニーズに合った支援が十分出来ないと思えます。家族が各種行事などでセンターを訪問される際に、懇談・面接の機会を設けるなど、家族との意思疎通に努められては如何でしょうか。
3. 少子・高齢化社会に対応して、小学校の空き教室活用したセンターとして整備されたものであり評価しますが、ゆとりのある施設をいっそう活用するために、次の点に配慮されることを望みます。
  - ・敷地の周囲の空地を活用した「園芸広場」で野菜作りなどをし、収穫した野菜を昼食の食材としても活用されるなどは、利用者の「生きがいづくり」に大いに役立っています。この活動を充実するためにも、園芸に興味をもつ地域ボランティアの協力を得られるよう、PR活動を充実されるように望みます。
  - ・建物の北側の通路（「園芸広場」へのアプローチ）の人工芝は凹凸があり、また湿って滑りやすくなっており、利用者の安全のためにも改修する必要があります。
  - ・校舎の廊下を利用した歩行訓練などの効果が出ているとのことですが、利用者アンケートの中にも「一日中座っているのはつらい。」という意見がありました。一人ひとりの利用者のニーズに合わせ、機能訓練を充実されてはいかがでしょうか。
  - ・アンケートに「休息用ベッドが少なく横になれない。」という意見がありましたが、広い和室の整理整頓と使い方を工夫され、必要時には休養スペースとして活用されることを検討されてはいかがでしょうか。
4. スタッフの平均勤務年数は比較的短い（平均3.5年）が、管理者のリーダーシップの下、ベテランと若年のスタッフが一体となってサービスに取り組んでいることがうかがえます。よりきめ細かなサービスを行うために、スタッフ一人ひとりが自分の役割を果たすだけでなく、利用者全体への目配りを心がけることが大切です。そうした取り組みの積み上げが、利用者・家族からの信頼をより深めるだけでなく、不測の事故を未然に防ぐ力になると思われれます。
5. 地域への情報開示を一層充実するために管理者が中心となり、社協や自治連、報道機関など地域の団体への働き掛けを強められるよう望みます。そのことにより地域の人々の理解度がより高まり、施設運営もより充実すると考えます。

(様式6)

## 評価結果対比シート

事業番号	2671200059
事業所名	宇治市小倉デイサービスセンター
受診メインサービス (1種類のみ)	通所介護
併せて評価を受けた サービス(複数記入可)	居宅介護支援
訪問調査実施日	平成19年11月13日
評価機関名	NPO法人きょうと介護保険にかかわる会

大項目	中項目	小項目	評価項目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
I 健全な 組織体制	(1)組織の理念・運営方針	① 理念の周知と実践	組織の理念が、利用者及びスタッフ等に周知され、法人の理事長及び事業所の管理者等（以下、「責任者等」という。）を含むスタッフ全員が、理念に沿ったサービスの提供を実践している。	A	A	
		② 運営方針の周知と実践	事業所の運営方針が、利用者及びスタッフ等に周知され、責任者等を含むスタッフ全員が、運営方針に沿ったサービスの提供を実践している。	A	A	
		③ 運営規程の遵守	事業所の運営規程が、利用者及びスタッフ等に周知され、責任者等を含むスタッフ全員が、運営規程に沿った事業所の運営及びサービスの提供を実践している。	A	A	
	(2)組織体制	① 責任者等の協働	責任者等は、介護サービスの質の向上に熱意を持ち、事務所の運営について、スタッフと共に取り組んでいる。	A	A	
		② 管理者による状況把握	管理者は、事業の実施状況等を把握し、いつでもスタッフに対して具体的な指示を行うことができる。	A	A	
		③ 透明性の確保	責任者等は、公正・適切なプロセスで意思決定を行い、組織としての透明性の確保を図っている。	A	A	
		④ 支援体制の充実	利用者の主治医や医療機関・介護保険施設との間で、連携体制又は支援体制が確保されている。	B	A	
	(3)労働環境	① 労働環境への配慮	質の高い介護サービスを提供することができるよう、スタッフの労働環境に配慮している。	B	B	
		② ストレス管理	スタッフの業務上の悩みやストレスを解消するために、具体的な取組みを行い、業務の効率を高めている。	B	B	
		③ 休憩場所の確保	スタッフが充分にくつろげ、心身を休めることができる休憩場所を確保し、必要な設備・備品を備えている。	A	A	
	(4)課題の設定	① 重点課題の設定	外的環境の変化や傾向を見極めた上で、事業の運営における重点課題が設定され、組織全体として課題の達成が図られている。	A	A	
		② 業務レベルにおける課題の設定	各業務レベルにおいて課題が設定され、スタッフ全員が課題の達成に取り組んでいる。	A	A	
	(5)人材の確保・育成	① 質の高い人材の確保	スタッフの採用時において、質の高い介護サービスを提供できる人材の確保を主眼としている。	A	A	
		② 継続的な研修の実施	採用時研修・フォローアップ研修等を実施しており、スタッフは、段階的に必要な知識や技能を身につけることができる。	B	B	
		③ OJTの実施	スタッフが業務を通じて日常的に学ぶことを推進しており、スーパーバイズ（指導・助言）を行う体制がある。	B	B	
	小 計 (A=2点、B=1点、C=0点として点数化のこと)				25	26

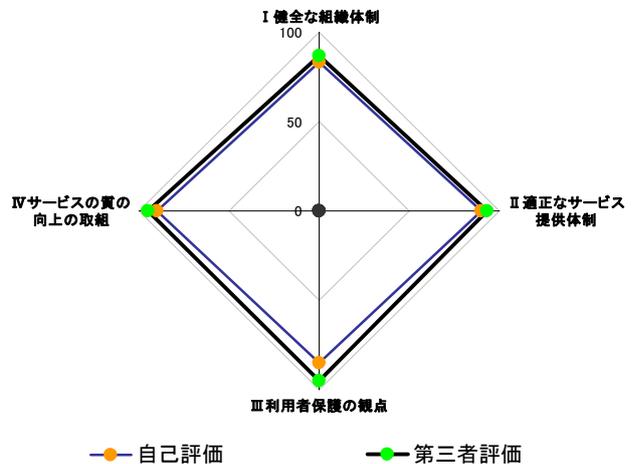
大項目	中項目	小項目	評価項目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
II 適正な サービス 提供体制	(1)サービスの品質の確保	① 業務マニュアルの作成	事故防止や安全確保を踏まえた業務マニュアルが作成され、スタッフに活用されている。	A	A	
		② サービス提供に係る記録	利用者の状況及びサービスの提供状況等が適切に記録されており、サービス提供を円滑に行うための工夫がされている。	A	A	
		③ 確実な情報伝達	スタッフ間の申し送りや情報伝達を確実に行うとともに、重要な事項については、全てのスタッフに伝わる仕組みとなっている。	A	A	
		④ ケアカンファレンス	定期的又は必要に応じてケアカンファレンス（介護検討会）が開催され、意見交換が行われている。	A	A	
	(2)個別援助計画	① アセスメントの実施	利用者一人ひとりの心身の状況や生活状況、利用者及びその家族の希望等を踏まえたうえでアセスメントを行っている。	A	A	
		② 個別援助計画の作成	アセスメントに基づき、利用者一人ひとりの目標を明らかにした個別援助計画を作成している。	A	A	
		③ 専門家等に対する意見照会	個別援助計画の策定に当たり、必要に応じて利用者の主治医・OT/PT・介護支援専門員・他のサービス事業所等に意見を照会している。	A	A	
		④ スタッフの意見の集約	個別援助計画の策定に当たっては、当該利用者に関わる全てのスタッフの意見を採り入れており、共通認識に基づく目標達成が図られている。	B	B	
		⑤ 個別援助計画の見直し	定期的又は必要に応じて、個別援助計画の見直しを行っている。	A	A	
	(3)利用者等の希望尊重	① 利用者・家族の希望尊重	個別援助計画の策定及びサービスの提供内容の決定に際して、利用者及びその家族の希望を尊重している。	B	B	
		② 希望等を引き出す働きかけ	利用者やその家族が、希望や要望、気掛かりなこと等をスタッフに気軽に伝えたり、相談できる機会を確保している。	A	A	
	(4)衛生管理	① 感染症の対策及び予防	感染症の対策及び予防に関するマニュアルの作成等により、スタッフ全員が感染症に関する知識をもってサービスの提供を行っている。	B	A	
		② 事業所内の衛生管理等	施設（事業所）内における物品等の整理・整頓及び衛生管理を行い、効率的かつ安全なサービスの提供を行っている。	A	A	
	(5)危機管理	① 事故・緊急時等の対応	事故や緊急時における対応等を定めたマニュアルがあり、年に1回以上、必要な研修又は訓練が行われている。	A	A	
		② 事故の再発防止等	発生した事故等に係る報告書や記録を作成し、事故の再発の防止のために活用している。	A	A	
	小 計 (A=2点、B=1点、C=0点として点数化のこと)				27	28

大項目	中項目	小項目	評価項目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
Ⅲ 利用者保護の観点	(1)利用者保護	① 人権等の尊重	利用者の人権や意思の尊重について、常に問題意識をもってサービスの提供を行っている。	A	A	
		② プライバシー等の保護	利用者のプライバシーや羞恥心について、常に問題意識をもってサービスの提供を行っている。	B	A	
		③ 個人情報保護	利用者の個人情報の保護及び職務上の守秘義務について、スタッフに徹底している。	A	A	
		④ 利用者の決定方法	サービス利用者等の決定を公平・公正に行っている。	A	A	
	(2)情報提供	① 事業所情報等の提供	事業所の概要及びサービス内容について、利用者やその家族にわかりやすく説明を行っている。	A	A	
		② 利用者に係る情報交換	サービス利用時の状況について家族に情報提供を行い、家族から家庭での状況について情報を得る等、情報交換を行っている。	B	A	
		③ 開示請求への対応	利用者やその家族から、提供を受けたサービスの内容や費用の明細等について情報開示の請求があった場合には、適切に対応している。	A	A	
		④ 地域への情報公開	事業所の運営理念を地域に対して啓発・広報するとともに、事業所の機能・知識等を地域社会に提供している。	B	B	
	(3)利用契約	① 料金の明示と説明	介護サービスの利用に際して必要となる料金について、根拠を明らかにして利用者にわかりやすく説明している。	A	A	
		② 合意書面の作成	サービスの提供開始に当たっては、利用者及び事業者双方の権利・義務を明らかにし、合意の結果を契約書等として書面に行っている。	A	A	
	小 計 (A=2点、B=1点、C=0点として点数化のこと)				17	19

大項目	中項目	小項目	評価項目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
Ⅳ サービスの質の向上の取組	(1)苦情解決	① 苦情・相談窓口の明示	利用者からの苦情や相談を受けつける窓口及び担当者等が明示され、利用者及びその家族に周知されている。	A	A	
		② 苦情やトラブルへの対応	苦情やトラブルがあった場合には、組織として迅速かつ誠意をもって対応している。	A	A	
		③ 第三者への相談機会の確保	公的機関等の窓口相談や苦情を訴えるための方法を、利用者及びその家族に周知している。	B	B	
		④ 苦情に基づくサービスの改善	利用者からの苦情をサービスの向上に役立てている。	A	A	
	(2)質の向上に係る取組	① 利用者満足度の把握	利用者の満足度を把握し、サービスの質の向上に役立てている。	A	A	
		② 質の向上に対する検討体制	サービスの質の向上に係る検討体制を整備し、責任者等を含むスタッフ全員が積極的に参加している。	A	A	
		③ 評価の意義についての周知	サービス評価を行うことの意義及び評価結果をサービス改善に活かすことが、責任者等を含むスタッフ全員に周知され、理解されている。	A	A	
	(3)評価の実施	① 自主点検の実施	京都府が各事業所に配布している「自主点検表」を活用して、年に1回以上、自主点検を行っている。	A	A	
		② 自己評価の実施	事業所の体制及びサービスの内容に係る自己評価を定期的又は必要に応じて行い、自らが提供するサービスの質の改善に役立てている。	B	A	
		③ 第三者評価の受け入れ	客観的なサービス水準の把握のために第三者評価を受け、評価結果を積極的に公表している。	A	A	
	小 計 (A=2点、B=1点、C=0点として点数化のこと)				18	19

【大項目ごとの点数】

大項目	自己評価	第三者評価結果
I 健全な組織体制	25	26
II 適正なサービス提供体制	27	28
Ⅲ 利用者保護の観点	17	19
Ⅳ サービスの質の向上の取組	18	19



【達成率換算表】

大項目	達成率			
	自己評価		第三者評価	
I 健全な組織体制	25/30	83%	26/30	87%
II 適正なサービス提供体制	27/30	90%	28/30	93%
Ⅲ 利用者保護の観点	17/20	85%	19/20	95%
Ⅳ サービスの質の向上の取組	18/20	90%	19/20	95%